

会社名： ジャパンホームシールド株式会社

代表者名： 代表取締役社長 齊藤 武司

問合せ先： 札幌支店 中村

TEL:011-241-4600

各位

講習会開催についてのご案内

「北海道の軟弱地盤と戸建住宅の基礎」

今回ご案内させていただく講習会では、北海道の地盤の特性やどのようなことに気をつけて調査や設計をしたらよいかを分かりやすくご説明いたします。

JHS登録事業者様は1社につき2名様まで会費無料(通常2,000円)となりますので、ぜひ、貴社の不同沈下事故を減らし、地盤補強の実施比率を低減する取り組みとして、ご活用ください。

講習会内容

1. 危ない住宅地盤の真相
2. 北海道地盤の生い立ちとその強度特性
3. S D S 地盤調査法による北海道地盤の土質判定～従来法との比較

講師 日本住宅保証検査機構 技師長(工学博士) 大和眞一氏
基礎地盤コンサルタント北海道支社長(技術士) 齊藤和夫氏
東京都市大学工学部都市工学科教授 末政直晃氏

開催日時 平成 23 年 3 月 15 日(火) 13 時~17 時

開催場所 札幌コンベンションセンター 107・108 会議室

(札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1、電話:011-817-1010)

会場の駐車場には限りがございます。公共交通機関をご利用ください。

お申込方法:2月20日までに次頁のお申込票にご記入の上、FAXにてお申込ください。

ご多忙中とは存じますが、お繰り合わせの上ご参加下さいますようお願い申し上げます。

『北海道の軟弱地盤と戸建住宅の基礎』

講習会開催についてのご案内

講習会では、北海道の地盤の特性やどのようなことに気をつけて調査や設計をしたらよいかを分かりやすくご説明いたします。ぜひ、御社の不同沈下事故を減らし、改良基礎の実施比率を低減する取組みとして、ご活用ください。申込受付は先着順で定員になり次第締め切らせて頂きます。

講習会内容:

- 1. 危ない住宅地盤の真相13:30~14:40
- 2. 北海道地盤の生い立ちとその強度特性.....14:50~15:40
- 3. SDS地盤調査法による北海道地盤の土質判定～従来法との比較15:50~16:40

≪講師≫ 日本住宅保証検査機構 技師長（工学博士） 大和眞一氏
 基礎地盤コンサルタンツ 北海道支社長（技術士） 齊藤和夫氏
 東京都市大学工学部都市工学科教授 末政直晃氏

- 開催日時 平成 23 年 3 月 15 日(火) 13 時～17 時
- 開催場所 札幌コンベンションセンター 107・108 会議室
 （札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1、電話 011-817-1010）
 会場の駐車場には限りがございます。公共交通機関をご利用ください。
- 会 費 2,000 円（テキスト代含む ただし、JIO 届け出事業者、JHS 登録事業者は無料）

お申込方法： 2 月 20 日までに本用紙にご記入の上、FAXにてお申込ください。
 （申込多数の場合は先着順とさせていただきます。）

FAX番号:011-241-4595（JHS 札幌支店）

講習会 お申込票	届出事業者番号	聴講者氏名	勤務先・役職名	電話番号・FAX番号



株式会社 **日本住宅保証検査機構**

お問合せ先・・・北海道支店 TEL：011-806-0111 FAX：011-806-0115

〒060-0051 札幌市中央区南一条東 2 丁目 6 番地 大通バスセンタービル 2 号館 3 階

開催協賛： ジャパンホームシールド株式会社 札幌支店 TEL：011-241-4600 FAX：011-241-4595

後援： 株式会社 札幌工業検査 大通支店 TEL：011-887-6585 FAX：011-222-7855

テーマと内容:

1. 『危ない住宅地盤の真相』 講師:大和真一

わが国の住宅は海に近い平坦な平野部に多い<沖積層>と呼ばれる軟弱地盤と、<洪積層>と呼ばれる良質な台地の何れかに建っています。住宅の不同沈下事故はどのような地盤で起きるのか。多くの人は軟弱地盤で起きると思っていますが、必ずしも正しくありません。最近では良質地盤の方が多く起こっています。どのような所で最も多く起こっているのか、その原因は何か。地盤調査の見方など、どのようなことに気をつけて調査や設計をしたらよいのか。JIO社30万棟保証の中から実例でご紹介します。

2. 『北海道地盤の生い立ちとその強度特性』 講師:斉藤和夫支社長

北海道は北緯41°～45°の高緯度に位置し、面積は約8万3千Km²で、これは全国土面積の20%にあたります。また、気象環境は積雪寒冷地であることから、日本列島において特異な環境下にあり、これらのことは北海道の地形地質と密接な関係にあります。北海道地方の地形を大きく山地、丘陵地、低地に分類し、そこに分布する地質を概観すると特徴的な点がよくわかります。北海道を東西に分け背骨とも言える日高山脈には蛇紋岩が分布します。蛇紋岩の一部は膨潤性を有することから、しばしばトンネル工事や切盛土工等で問題になります。丘陵地に分布する地質は河川により運搬された堆積物が段丘地形となって堆積します。この段丘堆積物は河川浸食により地すべりを誘発することが特徴です。また、丘陵地の表層部は火山灰に被覆されており、火山灰を盛土材として利用した造成地は豪雨時の斜面崩壊や地震時の液状化による地盤沈下が発生します。低地における地質はしばしば軟弱粘性土からなり、軟弱地盤地帯を形成します。北海道の特徴として、軟弱地盤地帯の表層部は泥炭層が分布します。泥炭層は植物の遺骸から構成され、極軟質の性状から土木、建築構造物に対して多くの問題を包含した地質となっています。なお、火山灰と泥炭は北海道を代表する特殊土とされています。今回はこれらの地盤の出来方、被害の実態、工学的な性質を説明します。

3. 『SDS地盤調査法による北海道地盤の土質判定 ～ 従来法との比較』 講師:末政直晃教授

SDS調査法(スクリュードライバー式サウンディング法)は、従来のスウェーデン式調査法(SWS法)を改良したものでロッドの載荷荷重のみならず、ロッドに回転力を与えてロッドの回転トルクと1回転あたりの沈下量の三成分を測定する方法です。

従来のSWS法が荷重(W_{sw})のみの一成分の測定だったのに対して、SDS法は三成分測定して土質判定する方法です。これによって従来のSWS法並みの価格で、標準貫入試験(ボーリング)なみの精度の土質判定が可能になります。

欧米ではボーリングよりもCPT試験と呼ばれる『電気式三成分コーン試験』が多く使用されます。SDS法は取得する三成分の種類がCPT試験とは異なるものの三成分を用いて、サンプリングすることなしに土質判定するという面でこれに近いものです。今回はこのSDS法によって調査した例を従来のSWS法やボーリングなどと比較して説明します。具体的には、

- 1) SDS法の調査メカニズムと従来法との比較
- 2) 関東平野で実施した沖積層、洪積層、腐植土層の判定例、
- 3) 北海道の沖積層、腐植土(泥炭)地盤の判定例

などをご説明します。